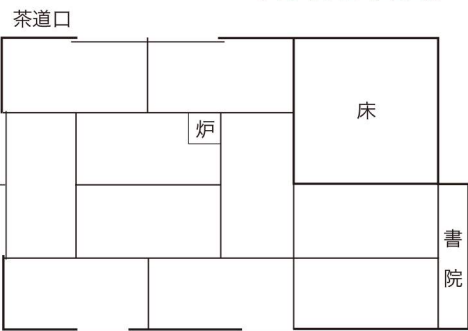


實性寺 表千家茶道の7月稽古

残月亭写し「聴松軒」での稽古

聴松軒

《聴松軒広間》



書院飾り



床の間

【7月の稽古】

〈5回に分けて〉

- 一、初炭
- 一、茶碗飾
- 一、茶入飾
- 一、盆香合
- 一、濃茶
- 一、長緒
- 一、仕組点
- 一、薄茶 亭主相伴



附着水



竹釣り舟

【道具組】

- 〔掛物〕 「扶柜 不着水」 朴堂老師
- 〔花入〕 竹釣り舟
- 花 「縞芦」「金水引」
- 「白むくげ」「宗且むくげ」
- 〔釜〕 惺斎好刷目琉球風炉
- 風炉 惺斎好ツボツボ透し
- 敷瓦 丸 搔合せ
- 〔水指〕 木地「釣るべ」
- 席主絵 染付牛の絵
- 桐糸巻棚
- 〔棚〕



染付牛の絵



木地・釣るべ

- 〔香合〕 即中斎好 桐夕顔
- 炭斗 平竹炭斗
- 羽根 白鳥
- 火箸 少庵型
- 〔茶入〕 膳所 尻張
- 仕服 綾花紋
- 〔茶入〕 瀬戸 大海（長緒）
- 仕服 富貴長命
- 〔茶碗〕 李方子様 井戸茶碗
- 替 京焼 青楓 平
- ” 京焼 七夕
- ” 万古 梶の葉絵 宗完宗匠
- 〔茶杓〕 「karakusa」
- 〔茶器〕 七夕平棗
- ” 面中次綱目
- ” 建水 タイ製 南鐮
- ” 蓋置 竹 引切り
- ” 蓮 交趾
- 〔菓子器〕 青釉 松孤軒松葉
- 〔干菓子器〕 ささ舟 青漆
- ” 曲 杉木地
- 菓子 とらや「撫子」「夕涼み」「浅路飴」「七夕ういろ」
- 干菓子 「蓮の実納豆」「七夕」「薄水ほたる」
- 蓆盆 桐 手付き
- 火入 染付
- 蓆入 切泊 たとう
- 濃茶 「祥雲の昔」 柳桜園
- 薄茶 「珠の白」 柳桜園



さらさら



南鐮



七夕平棗



交趾



梶の葉絵



李方子様



大海（長緒）



桐夕顔

【稽古の内容】 七夕蓮見の会しつらえ

- ◆茶碗飾 茶碗に茶入れを納める意味合い
- 茶碗は両手であつかうべき特別な道具
- 客の挨拶正客の挨拶が重要
- 稽古ながら茶事の流れを考慮し進める
- ◆茶入飾 飾り物にて下座での袱紗捌き
- 一度の運びで亭主の動きを整える
- ◆仕組点